

屋久島(宮之浦岳) & 開聞岳山行報告

【山行日】2019年 11月 7(木)~11(月)

【集 合】岩舟支所P AM 3:45

【費 用】交通費&宿泊代 : 88,400円

【メンバー】CL:鈴木、安西、石川、鶴見

11月7日(木) 曇り時々晴れ

羽田空港から鹿児島空港経由して屋久島へ

岩舟支所 P3:45=つばさパーキング 5:00=

羽田空港 5:20/6:25→鹿児島空港 8:40/9:30=

トッピー乗船場 10:20/12:00 ~ ~ 宮之浦港

13:50/14:00=千尋ノ滝 15:10/15:40=

猿川ガジュマル 16:00=杉の里 16:20



屋久島宮之浦岳と開聞岳に登りたいというリクエストがあり、5年ぶりに2座に登る計画を立てた。鹿児島空港に降り立ち、高速船乗り場まで高速バスに乗り、種子・屋久高速船旅客ターミナルに行く。時間があるのでターミナルの手荷物預所に荷物を預け、近くのウォーターフロントパークに行き、シ



ョッピングや昼食を食べターミナルに戻る。

港の対岸に桜島が大きく聳えているが、天気が良い割には山が霞んで見えた。宿に着いてから分かったことだが、この日桜島は噴火し噴煙が3800mまで達したらしい。高速船トッピーに乗船し、定刻に出発して屋久島の宮之浦港に向かう。天気が良いのに周りの景色が見えず、うつらうつら眠っている間に予定通り宮之浦港に着いた。下船してターミナルに向かうと、途中で安房タクシーの川東さんが「鈴木様」の看板を掲げて待っていた。早速トランク

に荷物を載せ宿の「杉の里」へ向かうが、時間があるので千尋ノ滝に向かうようお願いする。

千尋ノ滝駐車場に着くと運転手さんが「東側の展望台から見たほうがいいですよ」と言って、東側展望台に案内してくれた。滝からは少し距離が遠くなるが、高台になっているので滝周辺の全体が見渡せる。モッチョム岳の裾の巨大な花崗岩の岩盤を、鯛之川が刻んで壮大なV字谷の景観を作り出した様子が一目で解る展望台だ。落差60メートルの豪快な滝で、滝の左側にある岩盤は、まるで千人が手を結んだくらいの大きさと言うことで「千尋の滝」と名付けられたそう。滝の全体を把握したら、来た道に戻り正面の展望台に向かう。



駐車場から土産店の前を通り、木立の中の道を進むと前方が開け展望台に出る。



先ほどの展望台よりもかなり近くなり、豪快な滝の迫力が伝わってくる。

以前は、滝の下まで行く道があったそうで、下を良く見ると道や橋が確認できた。滝をバックに記念写真を撮り、景色を楽しんだら駐車場に戻る。

皆さんがガジュマルの樹を見たいというので、運転手さんが猿川のカジュマルへ案内してくれた。宿へ行く途中、県道から左へ数百メートル入った所に小さな看板がある。入口の駐車スペースに車を止め、細い山道を降りて原生林の中に分け入る。

小沢を渡り少し行くと、太い幹から無数の気根が垂れ下がる見事なガジュマルがあった。見たことが無い樹形に皆喜んで写真を撮っていた。今宵の宿杉の里に着き、風呂に入ってから明日の準備をする。夕食は6:30から食堂で戴く。カンパチとカツオのお造りにトビウオのから揚げや煮物等々、食べきれないほどの御馳走が並び大満足。ビールや地元の焼酎「三岳」が料理にとっても良く合い、ついつい飲みすぎてしまう。明日は3:30起床、4:30に出発と皆さんに伝えて床に就いた。

11月8日(金) 淀川登山口から花之江河を経由、宮之浦岳に登頂し新高塚小屋まで縦走する。

杉の里 4:30=淀川登山口 5:10/5:30~淀川小屋 6:20/6:40~花之江河 8:25/8:40~投石平 9:40~

宮之浦岳 11:30/12:00~三叉路 12:25~第二展望台 13:10/13:20~新高塚小屋 14:00

朝3:30起床し、直ぐに窓の外を覗き天気を確認すると、星が瞬き天気は上々のようだ。歯を磨き、髭をそり冷たい水で顔を洗って気合を入れる。冷蔵庫と冷凍庫から食材と保冷用の氷を保冷バックに詰めザックに入れる。

ヘッドランプを出し、ポケットに入れ忘れ物がないか確認する。玄関に行くと、女性達は靴を履いてタクシーに荷物を積んでいた。淀川登山口に向けて出発し、暗く狭い山道の途中5月の豪雨被害の爪跡が何か



所か見られたが、通行には支障が無いようだ。皆さんは「屋久島の山はどんな山なんだろう」と期待と不安が混ざり、口数が少なくなっていた。暗い山道を1時間程走り、淀川登山口に着く。車は数台止まっていたが、後から着いた車は係員に手前の路肩に止めるよう指示されていた。ザックを降ろ



し運転手さんに料金を支払い、お礼を言って出発の準備をする。係員の方に「山岳部環境保全協力金」一人2000円を納め、トイレを済ませ靴の紐を締めヘッドランプを点けて出発する。何回か通った道だが、暗い中ヘッドランプを頼りに歩くのは難しい。木製の階段や木の根が露出した登山道を、短く上下し左右にくねって進んで行く。

およそ50分程歩くと淀川小屋に着く。ようやく空が明るくなり、小屋の前のベンチで朝食をいただく。小屋に泊っていた男性も朝食の支度をして、我々の隣で朝食を食べていた。朝食後トイレを利用し



ようとしたら、扉に鍵が掛かり利用できない。宿泊した男性によると、一昨日泊った時は使用できたが、昨日使おうとしたら鍵が掛かっていたという。しかたなくトイレは寄らずに出発する。淀川に掛かる鉄橋を渡ると、いきなり急登が始まる。サクラツツジの低木やスダジイ、タブノキの巨木の中を登ると尾根に出る。

灌木と幹に苔を付けた老杉の道をジグザグに登ると、左手に高盤岳展望台がある。花崗岩の展望台から、豆腐のような岩を載せた高盤岳が望める。登山道に戻り、しばらく下って行くと小花之江河の小湿原に出る。左後ろに巨岩を載せた高盤岳を望み、樹林に囲まれた静かな自然の庭園を楽しむ。さらに屋久杉の森を越えて行くと、大きな花之江河の湿原に着く。南の島では珍しい高層湿原は、まさに神苑の名にふさわしい場所である。中心に祠が祀られ、2頭のヤク鹿がのんびりと草を食んでいる。まだ小鹿の2頭は尻尾が白く、とても可愛らしく皆さんが写真を撮っていた。この場所は登山道の要所であり、安房歩道、尾之間歩道、湯泊歩道、栗生歩道が集まり、宮之浦岳に向かって登山道が続いている。湿原を東から



北へ巻き、木道や水の流れる花崗岩の露出した道に行く。

Iさんが樹林帯の道に飽きたらしく「ずっとこのような道に登るんですか？」と聞くので、「もう少し湯行くと展望が開け、屋久島らしい山の景色を見ながら歩くようになるよ」と答えた。緩やかに登ると黒味岳分岐に出て、直進して黒味岳東の山腹から安房川南沢源流に沿って登って行く。やがて源流の湿原地帯出て、投石湿原の看板があり小休止する。ここから少し登ると大きな花崗岩の上に開けた投石平で、花崗岩の上から初めて宮之浦岳を望める。ここからはヤクササに覆われた緩やかな



斜面を進み、いかにも屋久島の山岳らしい景色を見ながら気持ちよく歩ける。安房岳西斜面を進み、小楊子川源流の谷沿いに出て、右上に翁岳の巨岩を眺め宮之浦岳との鞍部に出る。栗生岳経て最後の登りとなり、急坂に大きな段差が疲れた足に堪える。A嬢は少し疲れた様子で、少し

離れるがゆっくりと自分のペースを守り登って来る。ササ帯の急登を登り切ると、待望の宮之浦岳山頂に飛び出る。九州最高峰の宮之浦岳山頂からの展望は素晴らしく、永田岳や明日辿る高塚、縄文杉への尾根、さらには口永良部島や硫黄島まで見渡せる。

山頂で記念写真を撮ったら西側の岩に腰かけ、景色を楽しみながら昼食をいただく。宿で用意してくれた弁当と、インスタントの味噌汁がとても美味しく感じられた。皆さんも重いザックを背負って宮之浦岳に登り切った喜びで、とても嬉しそうに昼食を味わっていた。山頂はガイド登山のグループ



や、夫婦で登って来た方達でとても賑やかで、T嬢も嬉々として写真を撮りまくっていた。

ランチが済んだら高塚小屋に向かって山頂を後にする。宮之浦岳から北に下り、焼野三差路は永田岳への道を左に分け、ヤクササの中を進むと平石平に出る。ここから坊主岩に登り返し、樹林帯の尾根を進むと第二展

望台に着く。小休止後、宮之浦歩道と呼ばれる尾根を進み、第一展望台を過ぎるとヒメシヤラの木が目立つようになる。ヒメシヤラの森を過ぎ、緩やかに下ると新高塚小屋のトイレ前に出て、木の階段を下ると新高塚小屋に着く。小屋の中に入ると先客が2人居たが、好きな場所を確保できた。

自分たちの場所を箒で掃いて綺麗にし、エアマットとシュラフを敷いて場所を決める。時間が早いので4時までは各自自由に過ごし、4時から夕食の準備に取り掛かる。天気が良いので外のベンチで夕食を摂ることにする。水場で水を確保し、お湯を沸かしてアルファ米に注ぎご飯を作る。マッシュポテトにお湯を注ぎポテトサラダを作り、メインディッシュは前日光和牛の焼き肉と豪華だ。お隣のグループも焼き肉で、賑やかにディナーをいただいた。暗くなると冷え込んできたので、夕食が済んだら小屋に戻りシュラフにもぐり込む。ヘッドランプを消すと、漆黒の闇になり朝までグッスリ眠れた。

11月9日(土) 新高塚小屋から感動の「縄文杉」と対面し、ウイルソン株を経て大株歩道に下り、楠川別れから太鼓岩に登り白谷雲水峡へ

新高塚小屋 6:00～高塚小屋 7:00/7:10～縄文杉 7:30/7:50～ウイルソン株 8:40/9:00～大株歩道入口 9:20/9:30～楠川分れ 10:30～辻峠 11:20～太鼓岩 11:40/11:50～辻峠 12:10/12:40～白谷山荘 13:25～白谷雲水峡 P14:10＝杉の里 16:00

朝4時30分に起きて朝食の支度をする。お湯を沸かしてアルファ米に入れ、ご飯が出来るのを待つ。おかずは焼き豚とシイタケ昆布にインスタントみそ汁を用意した。暗闇の中ヘッドランプの灯り



で朝食をかき込み、出発の準備を整える。皆さん予定の時間に入口前に揃い、高塚尾根を下って縄文杉に向かう。この道も毎回暗い中通るので、どの様な登山道なのか全くわからない。木の階段やハシゴを下り、くねくねと左右に曲がる道はとても分かりにくい。東の空が明るくなると杉の大木が目立つようになり、高塚小屋の建物が見

えてきた。小屋で休憩し、トイレを使用し小屋の中を見学する。高松小屋は数年前に立替えられ、三階建ての綺麗な小屋になっている。宿泊者はすでに出発したらしく、小屋の中には誰もいなかった。小屋から少し歩くと木製の展望台が現れ、縄文杉を見るための展望台である。

左右と正面に展望台が建ち、正面と左右の側面から縄文杉を見ることが出来る。この時間には、新高松小屋が高松小屋に泊った人しか来られず、貸し切り状態でのんびりと見学できる。

A嬢が永年夢に見た縄文杉とのご対面は、感動もひとしお大きかったことと思う。縄文杉を左右、正面と写真を撮り、いつまでも見ていたいようだが次のウィルソン株へ向かう。大株歩道と言われる巨



木の森を下り、登山道の脇に巨大杉が次々に現れる。夫婦杉、巨杉、大王杉等々間近で見られるので縄文杉に劣らぬ迫力がある。途中で本日荒川登山口から登って来た一番の人に出会う。ウィルソン株の手前で会うのは初めてで、かなりのスピードで登ってきたようだ。ウィルソン株に着き、株の中には入れないと思っ

ていたら、中に入ることが出来た。記念写真を撮ったら大株歩道入口に向かって下る。急な木の階段を降りて行くが、ここら辺から観光客が次々と登って来るので、すれ違いで待たされ時間が掛かる。30分程下ると大株歩道入口に着き、橋を渡ってトイレ休憩をとる。大勢の登山者や観光客が休憩し、トイレも女性用は多勢並んでいた。

トイレを済ませたら橋を渡り、安房川に沿って軌道敷を歩くようになる。軌道敷も次々と登山者や観光客が歩いてくるので、その都度軌道脇に避けてすれ違う。小杉谷荘跡がトイレになっており、トイレを済ませる。すぐ先が楠川の別れで、ここから軌道敷を離れ左



に楠川歩道を登るようになる。鬱蒼と茂った照葉樹の登山道を登り、辻の岩屋と言われる大きな岩を過ぎると辻峠に着く。ここから右に10分程登ると太鼓岩で、大勢の観光客で賑わっていた。



太鼓岩からの展望は素晴らしく、昨日登った宮之浦岳から翁岳、安房岳、投石岳、黒味岳の稜線が見渡せた。眺望を楽しんだら辻峠まで戻り、ここでランチタイムとする。ベンチがいくつかあり、その一角を借りてお湯を沸かしスープを作る。バターロールにハムを挟んだサンドイッチとタマゴスープのランチをいただく。カステラやロールパンも出て、お茶を沸かしていただいた。ランチが済んだら白谷雲水峡に向かって下って行く。ここからは登りが無く、下る一方なので皆さんも少し安心した様子。苔の歩道を下って行くと、アニメ「もののけ姫」のモチーフとなった「苔の森」に着く。女性に人気のスポットで、多くの観光客が写真を撮っていた。白谷小屋でトイレ休憩し、さつき吊り橋を渡って飛流おとし、憩いの大岩、白たえの滝を見ながら白谷雲水峡入口に着いた。時間は早いがタクシーが来ているかとも思いますが、駐車場に行くがタクシーは見当たらない。時間まで待つかとベンチに座っていたら、T嬢が駐車場の奥に止めていたタクシーを見つけてきた。

タクシーにザックを積み、一昨日約束した焼酎「愛子」を買える店とお土産屋へ寄ってもらい、杉の里に戻った。部屋で荷物を整理してから風呂に入り、買って来た「愛子」で祝杯をあげる。

6時30分から夕食になり、豪華な料理を肴に今度は「三岳」で乾杯する。御岳を飲みながらゆっくり料理を味わい、無事に宮之浦岳に登れたことに感謝する。明日は移動日なので、ゆっくり朝食を食べてから出発と告げ、部屋に戻って床についた。

11月10日(日) 宮之浦港から鹿児島へ戻り、レンタカーで池田湖、長崎鼻を観光し指宿へ

杉の里 8:25＝志戸子ガジュマル公園 9:00/9:20＝宮之浦港 9:50/10:45+++鹿児島港 12:35＝ニッポンレンタカー13:10/14:00＝池田湖 16:00＝長崎鼻 16:10/16:40＝休暇村「指宿」17:10

朝6時過ぎに起き、顔を洗って髭を剃り荷造りを済ませて7時に朝食をいただく。朝食も沢山のおかずが並び、皆とても美味しくいただいた。御主人が、時計草の実を冷凍して



デザートで出してくれた。少し酸味があるが、冷たくて美味しくいただいた。

タクシーは8時30分をお願いしたが、すでに玄関前に待機していた。宿の御主人と奥様に挨拶し、タクシーで志戸子のガジュマル公園に向かう。志戸子海岸沿いにあり、樹齢500年を超える見事なガジュマルの樹や亜熱帯植物

が見られる。ガジュマル園に着くと、宿の御主人からテルモスの忘れ物があると連絡があり、宮之浦港に届けるとの事。こじんまりした植物園で、15分くらいで園内を一周出来る。大きなガジュマルの樹や、珍しい蘭など見ながら写真に収める。ここから宮之浦港に戻り、タクシーを降りて4日間お世話になった河東運転手とお別れする。待合室に

荷物を置き、女性達は早速お土産を買いに出かけて行った。我輩は待合室で荷物番していると、宿の御主人がテルモスを届けてくれた。

お礼に預かったお菓子を渡し、丁寧に礼のべて別れた。一人戻ってきたら荷物番を交代し、トッピーの乗船手続をする。定刻に宮之浦港を



出発し、予定通り鹿児島港に到着した。下船し出口に向かう途中でニッポンレンタカーから TEL があり、出口で待っていますとの連絡。お迎えの車に乗って営業所に行き、レ



ンタカーの手続きを済ませる。

ここから池田湖に向かうが、途中で昼食を食べる場所を探す。ショッピングモールに飲食店が数店集まった場所があり、トンカツの店に行くが大勢待っていて却下。次の店も、その次の店も並んでいる。

仕方がないので一番並んでないちゃんぽんの店に入るが、ここでもしばらく待たされた。2時過ぎているのに混雑しているってどういうこと？とつぶやいてしまう。ようやくお腹が満たされて、穏やかな気持ちで池田湖に向かう。いかにも南国らしいヤシやフェニックス



の街路樹の道路を走り、恐竜「イッシー」で有名な池田湖に着く。と言っても湖畔に「イッシー」のモニュメントがあるだけで、記念写真を撮ったら長崎鼻に向かう。開聞岳を正面に見ながら県道28号線を走り、「明日はあの山に登るんだよ」と話しながら長崎鼻の入口に着く。オジサン

に車を止められ、「一番近い駐車場へ案内するから、お土産を買ってくれ」と言われ駐車場へ案内される。車を止めてお土産店が並ぶ道を進むと、薩摩半島の最南端に突き出した岬「長崎鼻」が東シナ海に突き出ている。浦島太郎が竜宮へ旅立ったという伝説が残り、乙姫を祀った竜宮神社があり参拝する。その先には白い灯台が建っており、東シナ海に突き出た岩礁を遊歩道で歩いて行ける。岬から西に延びる砂浜の先には、明日登る開聞岳が雄大な姿で聳えている。皆さんは海岸を歩けるとは思っていなかったので、「すっごく楽しい！」と喜んでいました。



絶景をスマホに収めたら来た道に戻り、約束の土産店に寄ってお買い物。地元の名産品を揃えていて、皆さん沢山買いものをしたようだ。ここから今宵の宿休暇村「指宿」に向かう。昼食に時間が掛かり宿に着くのが遅くなってしまったので、部屋に入ったらすぐに「砂むし風呂」に入る。大浴場の外にある「砂むし風呂」に行き、専用の作務衣に着替



えて砂に埋めてもらう。入浴時間は15分が目明日だが、時計を見て自分で時間を管理する。10分くらい過ぎると顔に汗が噴き出るが、手が砂の中なので我慢するしかない。

しっかり汗をかいたら砂風呂を出て、大浴場で作務衣を脱いで

シャワーで砂を落とす。その後温泉に入って体や頭を洗ってサッパリする。7時から夕食の時間になり、レストランに向かう。ハーフバイキングでお造り、焼き物、ブリのしゃぶしゃぶがメインで、後は好きなものを取って来ていただく。

小さな器に少しずつ入っており、沢山のおかずをチョイスでき好評だった。

夕食が済んだら部屋に戻り、明日の早立ちに備えて早めに床についた。

11月11日(月) 開聞岳に登り鹿児島空港から羽田空港へ帰り帰宅する

休暇村「指宿」5:30＝ふれあい公園 6:05/6:25～二合目登山口 6:45～五合目 7:30～七合目 8:00～

開聞岳 9:10/9:35～七合目 10:15～ふれあい公園 11:20/11:50＝鹿児島空港 14:30/16:20→羽田空港

18:15/18:55＝つばさパーキング 19:20＝岩舟支所 P21:10

休暇村を朝5時半に出発し、開聞岳の麓にあるふれあい公園に向かう。途中のコンビニで朝食



をゲットし、ふれあい公園の駐車場に車を止める。売店前のベンチで朝食を食べ、トイレを済ませて出発の準備を整える。空が明るくなり、ストレッチを行ってから出発する。公園内の標識に従って歩いて行き、舗装道路を5分ほど歩くと二合目登山口に着く。ここから林の中の凹状の急な登山道に取り

つく。火山独特のザレた登山道で、とても歩きにくい。登山道の脇にはツワブキの黄色い花が沢山咲いていて、南国の山だという雰囲気を感じさせていた。4合目に着くと左側が開けて、下界が見えるようになり池田湖が良く見える。5合目でもまた視界が開け、今度は長崎鼻方面の眺めが素晴らしい。螺旋状の登山道を登るので、見える方向が変わってゆきとても楽しく登れる。7合目から岩がゴロゴロした道になり、足場を確認しながら慎重に登る。しばらく登ると灌木帯になり、海も見え始めて明るい道を登るようになる。大きな岩がゴロゴロとした薄暗い湿地帯を抜け、頭上が開けて八合目に着き、もう山頂は近くなる。



3mくらいの崖をハシゴで登り、露岩帯

を進むと赤い鳥居があり枚聞神社の奥ノ院が祀られている。奥ノ院を参拝し、右側の道を登ると大きな岩が重なる開聞岳山頂に着く。先客が2名居り、写真を撮り終わるのを待って我々も



記念写真を撮る。山頂からの眺望は素晴らしく、東シナ海から大隅半島、鹿児島湾や池田湖が一望の下望め、しばらく展望を楽しむ。展望を楽しんだらおやつタイムになり、景色を楽しみながら菓子や果物をいただく。単独行の男性は奥様が古河市出身との事で、A嬢と話が盛り上がっていた。もう一人の男性は自転車で日本中を気まま

に旅するのが趣味で、皆さん「いいな～そういうのをやってみたい」と羨ましがっていた。

下山は往路を戻るが、登って来る人が多くすれ違いで待たされる。岩場は慎重に下り、ザレタ登山道は足を取られないようゆっくり下る。2合目登山口まで下りれば安心して、舗装道を歩いてふれあい公園に戻った。女性達はトイレで着替え、我輩は荷物を詰替えて帰る準備をする。皆さんの荷物を車に積んだら出発し、下山時に確認しておいた「そばの館皆楽来（みらくる）」で昼食をいただく。皆楽来は地元産蕎麦粉を使用し、純手打ちの蕎麦で人気の店らしい。蕎麦とおにぎりや蕎麦とお稲荷さんのセットが540円と、とてもリーズナブルにランチをいただける。お腹がいっぱいになったら帰路につき、指宿スカイラインから九州自動車道を通り鹿児島空港に向かう。鹿児島空港で最後のお土産を買い、羽田空港に向かうが巨大積乱雲に着陸を阻まれ、30分程遅れて羽田空港に着いた。つばさパーキングから愛車に乗り、首都高速から東北道を進み無事岩舟支所に帰着した。